

# JIS

量及び単位 —  
第13部：固体物理学

JIS Z 8202-13 : 2000

(ISO 31-13 : 1992)

平成12年3月20日 制定

日本工業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

## まえがき

この規格は、工業標準化法に基づいて、日本工業標準調査会の審議を経て、通商産業大臣が制定した日本工業規格である。これによってJIS Z 8202-1985は廃止され、JIS Z 8202-0～JIS Z 8202-10, JIS Z 8202-12及びJIS Z 8202-13に置き換えられる。

今回の改正では、日本工業規格と国際規格との対比、国際規格に一致した日本工業規格を作成するために、ISO 31-13 : 1992, Quantities and units—Part 13 : Solid state physicsを基礎として用いた。

なお、ISO 31-11 : 1992, Quantities and units—Part 11 : Mathematical signs and symbols for use in the physical sciences and technologyは、JIS Z 8201 (数学記号)として制定されている。

JIS Z 8202-13には、次に示す附属書がある。

附属書A (規定) 結晶の面及び方向に関する記号

JIS Z 8202の規格群には、次の部編成がある。

第0部：一般原則

第1部：空間及び時間

第2部：周期現象及び関連現象

第3部：力学

第4部：熱

第5部：電気及び磁気

第6部：光及び関連する電磁放射

第7部：音

第8部：物理化学及び分子物理学

第9部：原子物理学及び核物理学

第10部：核反応及び電離性放射線

第12部：特性数

第13部：固体物理学

---

主 務 大 臣：通商産業大臣 制定：平成 12.3.20

官 報 公 示：平成 12.3.21

原案作成協力者：財団法人 日本規格協会

審 議 部 会：日本工業標準調査会 基本部会 (部会長 今井 秀孝)

この規格についての意見又は質問は、工業技術院標準部管理システム規格課 (〒100-8921 東京都千代田区霞が関1丁目3-1) にご連絡ください。

なお、日本工業規格は、工業標準化法第15条の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本工業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

量及び単位 —  
第13部：固体物理学Z 8202-13 : 2000  
(ISO 31-13 : 1992)Quantities and units—  
Part 13 : Solid state physics

**序文** この規格は、1992年に第2版として発行されたISO 31-13 : 1992, Quantities and units—Part 13 : Solid state physicsを翻訳し、技術的内容を変更することなく作成した日本工業規格である。ただし、追補 (Amendment) については、編集し、一体とした。

なお、この規格で点線の下線を施してある箇所は、原国際規格にはない事項である。

**0.1 表の配列** この規格の量及び単位の表は、量を左のページに、また、単位を対応する右のページに配列する。

2本の実線の間にあるすべての単位は、左のページの対応する実線の間の方に属する。

ISO 31のいずれかの部の改正 (1992年版) で番号が変更になった場合には、左のページの量を表す新しい番号の下に括弧を付けてISO 31の旧規格の番号を示す。

なお、ISO 31の旧規格にその項目がない場合には、ダッシュ (—) でそのことを示す。

**0.2 量の表** この規格で扱う分野において最も重要な量は、それらの記号とともに多くの場合、定義も示す。ただし、これらの定義は、単にその量を特定するためであり、完全なものではない。

特に、定義上ベクトル表示式が必要な場合、幾つかの量については、そのベクトル的特性にもふれているが、完全性又は一貫性を意図するものではない。

多くの場合、ある量に対しては一つの名称と一つの記号とを示す。一つの量に対して、二つ以上の名称又は二つ以上の記号を併記し、特別な区別を付けていない場合には、互いに対等な関係にある。2種類の斜体文字がある場合 (例えば、 $\theta$ ,  $\theta$ ;  $\varphi$ ,  $\phi$ ;  $g$ ,  $g$ ) には、いずれか一方だけを示してあるが、他方は対等に使用できないという意味ではない。一般に、このような別の字体に異なる意味をもたせることは推奨できない。括弧内の記号は、“予備の記号”である。したがって、特別の関係のもとで主要記号が別の意味合いで用いられている場合には、これら予備の記号が用いられる。

**0.3 単位の表**

**0.3.1 一般** 量に対する単位には、その記号及び定義を示す。詳細については、JIS Z 8202-0を参照。

**備考** ISO 31-0, Quantities and units—Part 0 : General principlesからの引用事項は、この規格の規定事項と同等である。

単位は、次のように配列してある。

- a) SI単位の名称は、大きい文字 (本体通常の文字よりも大きい) で示す。また、SI単位は、国際度量衡総会 (CGPM) で採択されたものである。SI単位の10の整数乗倍そのものは明示していないが、SI単位とその10の整数乗倍を用いることを推奨する。
- b) 実用上の重要さ又は特殊な分野での有用さから、SI単位と併用してよいSI以外の単位の名称は通常の大きさの文